

ハウスモモの高品質生産安定に関する研究

第1報 夏季せん定の時期・方法について

岡田眞治・坂井健輔・松尾智義・*酒井彰一 (熊本県果樹試験場・*熊本県天草農業改良普及所)

Shinji OKADA, Kensuke SAKAI, Tomoyoshi MATSUO and Shoichi SAKAI : Quality Improvement and Yield Stabilization of Peach Cultivated in Plastic Film Greenhouse
1. Time and Method of Summer Pruning

ハウス内のモモの若木は、露地より枝梢が過繁茂になりやすく、夏季の枝梢管理を怠ると、徒長枝や枯枝が多発し、枝梢の充実が非常に悪くなる。それが結実不良や品質低下を招いている場合が多く、夏季せん定等の枝梢管理は、ハウス栽培では特に重要な管理作業となっている。本報では、収穫前、収穫直後及び二次生長停止期の夏季せん定について検討したので、その結果を報告する。

1. 材料及び方法

試験1 樹勢の強い2年生砂子早生と樹勢のやや安定した4年生布目早生を用い、前者は5月13日(収穫前)と6月16日(収穫直後)、後者は5月25日(収穫前)と6月18日(収穫直後)に、強勢な新梢をそれぞれ3, 5, 7, 9節残して切返し、それから発生した幅梢について本数、伸長停止期、芽の着生状況等を調査した。なお、供試した2品種は異なるハウスのものを使用した。

試験2 2本主枝開心自然形位立ての4年生布目早生を4樹供試し、①収穫前+収穫直後+二次生長停止期、②収穫前+収穫直後、③収穫前、④無処理の夏季せん定区を設け、それぞれ必要量の夏季せん定を行った。つまり、収穫前(5月16~25日)は強勢な立ち枝(新梢)を5節程度残して切返し、果実への日当たりを良くし、収穫直後(6月18日)と二次生長停止期(8月28日)は徒長枝の間引きや混みすぎる側枝の切戻しを行い、次年の結果予定枝への日当たりを良くする必要最少限の夏季せん定を行った。なお、4樹とも4月15日芽かき、4月24日ねん枝を必要量行っている。

2. 結果及び考察

試験1 処理枝から発生した副梢のタイプを7月下旬の調査時点で第1図のように分類した。砂子早生の5月処理では、3節区でI-1型(50%)、5節区でII-1型(42%)とI-1型(33%)、7節区でII-1型(42%)、9節区でII-1型とIII-1型(いずれも25%)が最も多く、7月24日時点で副梢が完全に停止しているものは全

体の76%であったが、6月処理では5%で、ほとんどの副梢がまだ伸長中であった。また、その副梢に花芽のある節は、5月処理で26%であったのに対し、6月処理では2%しかなかった。一方、布目早生の5月処理では、W型とO型が3節区で44%もあったが、他の区ではほとんどなかった。また、3, 5節区ではI-1型(50%, 35%)、7節区ではII-1型(30%)が最も多く、7月28日時点で副梢が完全に停止しているものは全体の67%であったが、6月処理では完全に停止しているものはなかった。副梢に花芽のある節は、5月処理で49%であったのに対し、6月処理では12%しかなかった。以上のことにより、5月中・下旬処理の副梢は次年の結果枝として十分使えるが、6月中旬処理の副梢はほとんど使えないことがわかった。また、5月に新梢を切返す節数は、副梢の発生本数や花芽の着生状況等から判断して、5節程度が適当と思われる。

試験2 徒長枝数はD樹が20本で最も多く、B, C樹はその約半分であった。枯死した新梢数は6月処理樹(A, B)が約10本に対し、6月無処理樹(C, D)は約250本もあった。冬季せん定後の結果枝数はA樹が332本で最も多く、その充実度も他より優れていた。以上のことにより、収穫前、収穫直後、二次生長停止期の夏季せん定は、コンパクトで充実の良い側枝を下部の方までむらなく配置するために非常に有効であった。ただし、過度の夏季せん定は、収穫直後では二次生長による樹勢の乱れを生じ、二次生長停止期では樹勢低下を招く恐れがあるので、切りすぎないように注意する必要がある。

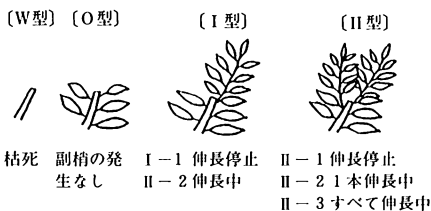
第1表 冬季せん定後の主枝上の結果枝数

樹	主枝分岐部からの距離 (cm)		
	0~100	100~200	200~300
A	20	92	63
B	14	58	63
C	19	74	68
D	9	46	65

注) 兼主枝は除く。

第2表 冬季せん定後の主枝上の結果枝質質

樹	基部	先端*	長さ
	径	部径	
A	4.3 mm	2.4 mm	29 cm
B	4.1	1.5	31
C	3.8	1.5	34
D	4.4	1.1	49

注) 西側の主枝の分岐部から100~200cmの範囲を調査。
*は先端から1cmの部位を測定。第1図 夏季せん定による副梢の発生タイプ
(III型以上も考え方は同じ)